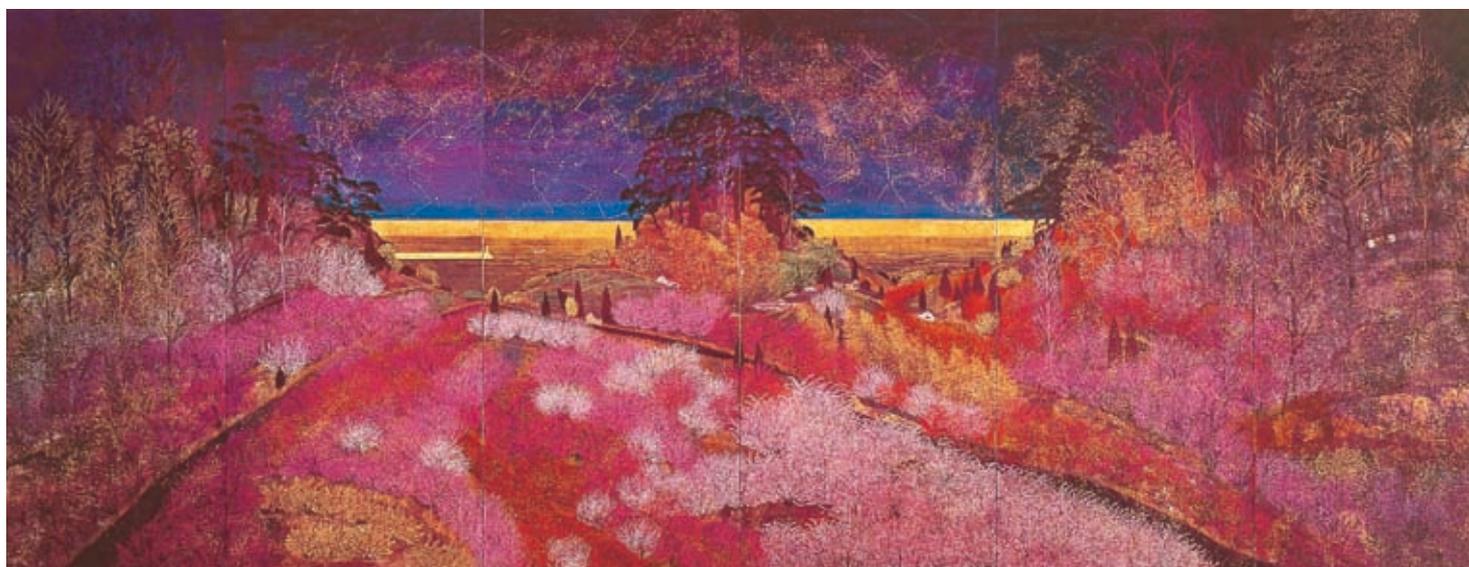


# 名古屋 文化 情報

2012  
3  
May.

No. 336  
NAGOYA  
Cultural  
Information



2012  
3  
May.

## Contents

三月のうた	2
随想 稲葉 真弓 (作家)	3
視点 名古屋の民謡 名古屋甚句 まとめ/飯塚恵理人	4
この人と… 岩田西園さん(下) 聞き手/飯塚恵理人	6
ピックアップ	8
おしらせ	9



### 表紙

作品

#### 「路-波の国から巡りくる」

(1992年/6曲1隻〈190cm×512cm〉一屏風/岩絵の具)

三春が訪れた。海も金色に輝く。思わず口からなつかしいメロディが流れはじめる。

平松 礼二 (ひらまつ れいじ)

1941年 東京都生まれ、名古屋育ち

1979年 第1回 中日大賞展、大賞受賞

1989年 第10回 山種美術館賞展、大賞受賞

2004年 第57回 中日文化賞 受賞

元・多摩美術大学教授

三  
月  
の  
う  
た

星  
が  
丘

篠しの

弘ひろし

この秋も桜が丘は遠からず退ひきた  
るのちも開講つづく

六階に研究室はすでになし昔のひ

ととなりて訪とひくる

をとめごに占められてゐる星が丘

風花享うくる坂の銀杏は

小学館で、長らく編集者をつづけたが、縁あって、平成十年から十年間、愛知淑徳大学に奉職する。折から短大を解消し、新設の文化創造学部長を担った時期である。

すでに退職したが、在籍中から始めたエクステンションの短歌講座をつづけている。後期の半年間、月一回は星が丘を訪れる。いつまでつづくかわからないが、定員20名は満席。名古屋への愛惜の念がつのり、常に変貌してやまない街をこの目で見守っている。  
(歌誌「まじる野」)

## 随想

## お茶と縁側



いなば まゆみ  
稲葉 真弓 (作家)

名古屋近郊にいたところで一番なつかしいのは、お茶の時間。たいていがお抹茶だった。近隣の人がくれれば祖母はいそいそと茶道具を出し、縁先で座布団を勧める。改まった客のときはお座敷が使われたが、私が好きだったのは縁側でのくだけたティー・タイム。庭に面した日だまりでのひとときは、子ども心にも浮き立つものがあった。茶菓子は、春なら桜餅やウグイス餅、秋は紅葉を象った干菓子、父が名古屋で買ってきた納屋橋饅頭のときもあった。

抹茶用の和菓子はたいてい子どもの目に触れない場所に隠してあったから、来客があるときはうれしかった。「あんたたちにも、一服あげましょ」と祖母が言え、必ずあのきれいな和菓子が食べられたからだ。

名古屋市内の知人宅を訪問するときも、父は必ず和菓子を手みやげにしていた。行けばお座敷に通され、お抹茶が出ることもわかっていった。私はこの父の友人宅が苦手だった。広い庭が見える立派なお座敷に通されれば、正座しなくてはならないからだ。おとなしく座っていると、すぐに足がしびれてくる。早く、話が終わってくれないかしらん、といつも気持ちは落ち着かなかった。

以来、茶席へのお誘いは逃げてばかり。縁側でのお茶なら……といつも口から出かかって、言葉を呑み込む。

焼き物の窯を持っている三重県の友人宅に、

手製の茶室ができ上がったのは昨年秋のこと。今年の正月、「見においで」と誘われた。森のなかの広い工房の一角を改造した茶室は、古民家の建具や長押、近くに自生する竹を利用したすばらしい出来だった。炉や茶釜も、もう所定の場に据えてあった。あとは外部の壁の仕上げを急ぐだけ。山桜が咲くころには基礎工事を手伝ってくれた大工さんや、土地の猟師さんを招いて春の茶会を催すらしい。

幸いこの友人宅は、工房全体に「縁側」みたいな気楽さが満ちている。「流儀なんかどうでもええよ。主役は森のなかのこの空間や、あとは勝手自由」と友人は言った。

亭主も、客もみななじんだひとばかり。そんな知人友人の顔に漂うくすぐったそうな表情まで想像できて、即座に「行く、行く」と約束した。森のなかで戴くお茶を思うだけで、焦げるような郷愁が湧き上がる。友人自作の奔放、豪快な茶碗を見るのも楽しみだ。

名古屋といえはお抹茶と、体にしみていた文化を、山の中の茶席で味わうことにしたこの春。私の体には、ひとつ箍が外れたような自由な風が吹き始めている。

## 名古屋の俗謡 名古屋甚句

名古屋は芸どころと言われるが、江戸時代から明治にかけて庶民に親しまれた俗謡の形式として甚句がある。今回は「名古屋甚句」を取り上げ、紹介したい。

(まとめ：飯塚恵理人)

## 「甚句」と名古屋

「甚句」は日本の伝統的な歌謡の一形式。佐藤成裕著『中陵漫録』（1826、文政9年序）巻十四「踏歌」に「越後の甚九踊の如き盛なるはなし」とあり、一般に盆踊歌の異称、もしくは七・七・七・五形、二上り調の酒席の騒ぎ歌の称にもいうとのこと。『東海道中膝栗毛』（文化元年～6年刊、十返舎一九）の弥次郎兵衛・北八は熱田宮の宿に泊った晩、北八が呼んだあんまが「わしがじんくを、旦那がたへきかせたい……ジャジ ジャン ジャン エエエエよふたよたよた五しやくの酒に、壺合のんだらさままたよかろ」と甚句を聞かせる場面がある。このあんまの唄う甚句は越後甚句だが、文化年間に熱田宿で甚句が唄われていた。当時の東海道は宮から七里の渡して桑名へ行くので、『東海道中膝栗毛』の本編に名古屋の記事はない。近世、熱田と名古屋は別々の町であった。「甚句」が同じころ名古屋でも唄われていたことは、この弥次郎兵衛・北八が名古屋見物をしたという設定で書かれた、1815（文化12）年の『四編の綴足』（名古屋静観堂版、東花元成著、名古屋叢書十四巻所収）にねぼけ眼で朝帰りのおかめ（遊女）を見た弥次が、「なるほどうつくしいものだ。しかしあたまをみなせへ。筑摩祭の鍋といふ。見立も古いから、烏が二三羽。あたまのうへで、じんくを踊っているよふだ」などと言っていることから知られる。「甚句」は江戸時代後期には名古屋大須観音辺りの遊廓で唄われ始め、幕末には「芸者殺すにや刃物はいらぬ甚句止めれば皆殺し」とまで言われるほど芸者やその鼻唄の客の間に大流行した。熱田や名古屋では、遊女や芸妓を中心に「甚句」が盛んに唄われていたから、『東海道中膝栗毛』本編や『四編の綴足』にも書かれたと考えられる。

名古屋では幕末から明治初期にかけて、大阪から来名を繰り返した岡本美根太夫が新内節に説経浄瑠璃の節を

加えて新しい節を語り出し、これを説教源氏節と名付けた。同門の岡本松蔭齋はこの説教源氏節と人形を、また岡本美狭松は女芝居と結びつけて流行させた。現在は甚目寺の「もくもく座」に人形芝居が復活、伝承されている。

また明治中期、大須観音裏の福田屋の名妓・かぎは美声で知られ、「名古屋甚句」の「かぎ」で「甚鍵」と呼ばれて評判となり、現在の「名古屋甚句」の芸風はこの「甚鍵」の流れが定着したものとされている。



正調名古屋甚句伝承会設立記念演奏会「みんなうたう名古屋甚句」のうち  
（師範による正調名古屋甚句）  
（2010年10月16日）名古屋能楽堂



同上  
（名妓連による名古屋甚句のおどり）

## 名古屋甚句の歌詞

「名古屋甚句」の歌詞の部分、名古屋邦楽協会所蔵の昭和の歌詞カードより挙げると下記ようになる。

- 一 恋の鯉 アーエ恋のやァー 鯉のこいの鯉の  
滝上りゃなっと言うて上るエ 山をやァ川に  
しようトォ コリアいうて上るウウエ
- 二 宮の熱田 アー宮の熱田の二五丁橋でエエエ  
アー西行法師が腰をかけ 東西南北見渡し  
て これ程涼しいこの宮を たれが熱田と  
ヨーホホ アー名を付けたアアエ トコドッ  
コイドッコイトショ
- 五 名古屋名物 名古屋名物 おいてちょうだも  
にすかたらんにおきゃあせ ちょっともちゃ  
かんとぐざるぜえも そうきゃもそうきゃもな  
んだアも いきやすかおきやすかどうしゅあす  
おみゃはまこの頃どうしゅあた 何処ぞに姫で  
も出来せんか 出来たら出来たといやあせも  
私もかんこがあるうゃあも おそぎゃあせえも

## 正調名古屋甚句保存会の設立

名古屋邦楽協会に残る高木栄一郎筆の「正調名古屋甚句保存会成立の経緯(昭和45年1月8日記)」を引用すると「戦後の名古屋甚句は、すばらしい勢で流行してきた歌謡曲や他地方の民謡に圧倒され、郷土にただ一つの貴重な民謡の存亡にも拘ることとなったので、昭和39年9月名古屋邦楽協会が主軸となり、名古屋市、市教育委員会、市文化財調査委員会、NHK名古屋中央放送局などの協力で正調名古屋甚句保存会が結成され、甚鍵一荒ふくの正統名古屋甚句伝承者である、名古屋芸妓株式会社(名妓連)相談役吉安けい(芸名登代子又は甚登代)に指導を委嘱して名取制を実施する一方、西川鯉三郎に新しい振付を乞うなどして、確固とした体制が整えられた結果、往年の名古屋甚句は見事に復活した」となる。



昭和40年頃作成された「民謡 名古屋甚句」レコードジャケット

師範の吉安けい以外の世話人はいずれも男性で、多くは会社を経営する旦那衆だった。旦那衆が甚句や小唄・端唄を愛好する雰囲気昭和40年前後にはあったと考えられる。

## まとめ

現在名古屋市内で「名古屋甚句」を稽古・発表している主な団体は「正調名古屋甚句保存会」(会長 大橋正昭氏・甚富薫師範)と「正調名古屋甚句伝承会」(会長 高橋治朗氏・世話人代表 小林一光氏・甚恵師範ほか)の2団体がある。



名古屋まつり「郷土芸能祭(芸能公演)」(2011年10月15日 オアシス21)  
出演は、正調名古屋甚句保存会



文化のみち二葉館にて演奏・指導  
出演は甚富華と正調名古屋甚句を拡める会

「甚句」は文化文政期に熱田・名古屋でも庶民の間に流行した。その流行の中で作られた「名古屋甚句」は幕末から現在まで、約150年に亘って歌い継がれてきた名古屋を代表する俗謡である。市内での発表会も行われているので、ぜひ多くの名古屋市民の方に親しんでいただければと思う。

# この人と...



尺八演奏家・東海三曲演奏家の会代表

いわ た せい えん

## 岩田 西園さん ①

### 尺八・三曲の伝承・普及と次世代の育成をめざして

前号では生い立ちから昭和40年代、現代邦楽に積極的に取り組まれるまでの先生の歩みを伺った。今号では長男恭彦氏・次男昭彦氏を加えた岩田律園尺八ファミリーコンサートを企画したこと。また昭和59年に東海三曲演奏家の会を設立して代表に就任、「三曲演奏家コンサート」シリーズを企画して多くの演奏家を育て、「岩田律園 第12回尺八ファミリーリサイタル 尺八いまむかし」で名古屋市民芸術祭2005審査員特別賞を受賞、2009年9月西園流尺八六代目宗家を継承する現在までの歩みを伺った。

(聞き手：飯塚恵理人)

### 岩田律園尺八ファミリーリサイタル

岩田師には、二人の息子さん(恭彦氏・昭彦氏)がいるがお二人とも尺八の演奏活動を行っていらっしゃる。

昭和52年に岩田師はファミリーリサイタルを企画された。平成3年の第10回のプログラムに「このリサイタルは、長男が尺八を吹くようになったので、(故)父祥園と相談し、素人なりに自分たちの修行の場として手造りでいいから始めようと、昭和52年1月に第1回を開催。父が去って次男が加わり、毎回地元著名箏曲家をはじめ東京芸大関係者を助演者に迎えて、音楽本位のプログラムを重ねてきました」とある。

第1回コンサートで父親の祥園氏は「四季の眺め」、「春の曲」、「御山獅子(律園と)」を吹かれている。祥園氏はこのリサイタル後23日に急逝された。第2回で、岩田師は田村味智歌氏と「夜々の星」を合奏されている。



第2回岩田律園尺八ファミリーリサイタルにて「夜々の星」(昭和54年9月1日 中電ホール)  
左から箏 加藤奏子、三絃 田村味智歌、尺八 岩田律園

第3回は昭彦氏が加わり、会場を市民会館とし、井野川検校、田村味智歌氏を、第4回は井野川検校と新宮順子氏(東京芸大講師)、5回は井野川検校と東京芸大関係者として村田章子、稲次理子、石井芳伸各氏など各回ごとに優秀な演奏者をゲストに招いた。



LPレコード「伝統名古屋の地歌」三絃 井野川幸次  
(録音昭和57年7月)

3回から7回までの特徴は常連の田中田鶴氏、大久保智子氏始め、地元箏曲家の他に東京芸大の関係者をメインゲストとして招いたことで緊張感のある舞台となり、地元三曲界に新風を吹きこんだことである。

8回から10回は第2部として尺八を主体としたポピュラー、クラシック、ジャズの曲を箏・洋楽器とのセッション



第8回岩田律園尺八ファミリーリサイタル(昭和63年4月24日)  
尺八(左) 岩田恭彦(右) 岩田昭彦

として、新しい尺八音楽の道を開発する舞台とした。名古屋では尺八を主体としたポピュラー邦楽の草分けといえる。

## 東海三曲演奏家の会の設立と活動

昭和59年1月15日(成人の日)に、芸術創造センターで、第1回の新春三曲合同演奏会を行い、その日会の終了後に「東海三曲演奏家の会」を設立した。流派とその



東海三曲演奏家の会 三曲演奏家コンサート  
(昭和62年10月4日)

流儀での資格を問わず、音楽本位の演奏会を作ることと、優秀な個人演奏家とその集合の小グループの活動を育成・支援することを目的としていた。第1回に参加した主なメンバーを挙げると、箏曲は田中田鶴、都築俊子、加藤泰子各氏など、尺八は岩田師、三輪忍盟氏となる。現在まで続いている主な年間事業としては、「新春三曲演奏会」のほか、「三曲演奏家コンサート(会の唯一の有料演奏会で、実力のある主要メンバーによる)」、「箏レディースコンサート」、「箏曲演奏会」などがある。その他数年おきに「大曲演奏会」や「箏ジュニアコンサート」、「三曲シルバーコンサート」なども行っていた。平成10年以降は高齢者及び学童の三曲愛好者の減少、あるいは愛知県・名古屋市の助成金の減少などにより、主催事業の本数は絞っている。一方、名古屋市民への普及のため、学校・社会教育センターでの鑑賞会・講習会、公開シンポジウム「芸どころ名古屋を語る集い」などを行っている。また、2010年の名古屋開府400年の際には邦楽コンサート「芸どころ名古屋を築く三曲400年のあゆみ」を開催、スターキャットテレビ「新春の調べ」への出演も継続して行っている。

## 復活・岩田律園尺八ファミリーリサイタル

平成3年に最終の10回を終えたファミリーリサイタルは、平成14年8月29日に会場を電気文化会館ザ・コンサートホールに移して第11回として再開した。岩田師は上方地歌の富田清邦氏の三絃で「残月」を演奏し、また大曲「根曳の松」に岩田師が編曲を行い、古曲の現代アンサンブル演奏を試みた。



第12回岩田律園尺八ファミリーリサイタル(平成17年10月25日)  
前列左より岩田昭彦 岩田律園 芦垣美穂 岩田恭彦  
後列左より 片山万季 浦上恵子

第12回は名古屋市民芸術祭2005参加公演として行われ、名古屋市民芸術祭審査員特別賞を受賞された。ゲストは芦垣美穂(名古屋音楽大学 客員教授)・浦上恵子・片山万季各氏である。岩田師は本曲の「霧海篋」(霧海篋)と芦垣の三絃で「残月」を演奏された。

## 西園流宗家継承

平成22年9月、西園流五代目宗家小原西園師の後継として岩田師は六代目宗家を継承、芸名の西園を襲名された。

ここで、尺八西園流の歴史について岩田師に教えていただいた事項を述べさせていただく。尺八は江戸時代まで普化宗という禅宗の一派で伝承されてきた。曲を吹く目的は仏に捧げるためであり、自らの修行のためだったため、遊興・他の楽器との合奏・民間人への教授を禁止していた。明治4年の廃仏毀釈の際、普化宗は廃止となり、尺八を伝承していた京都の明暗寺や浜松の普大寺は廃寺とされた。虚無僧たちは僧籍を失って民籍となった。尺八は民間に音楽として解放され、箏曲・地歌の合奏(三曲合奏)に加わり流行していった。その際本来宗教曲として伝承していた独奏曲を「本曲」、娯楽として新たに作られた曲や箏・三絃との合奏曲を「外曲」として区別した。幕末の頃、普大寺の虚無僧に習った名古屋在住の兼友西園氏は本曲・三曲合奏の名人として明治期の愛知県で名高かった。この門人たちの流れが西園流となる。



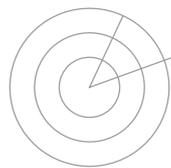
第19回三曲演奏家コンサート(平成23年11月27日)  
(左)岩田西園 (右)岩田昭彦

この西園流本曲(虚鈴、虚空、霧海篋、鶴の巢籠りなど全11曲)は、兼友西園氏に学んだ樋口対山氏が明治23年に京都の明暗寺を再興して継いだため、これらの西園流伝承曲が京都の明暗対山流本曲となっている。それを対山の後継の明暗寺37世谷北無竹師が昭和24年、再び名古屋へ伝えた。

岩田師は宗家として、明治・大正期の本曲譜を収集し、初代以後、外曲に傾倒し伝えられてきた現在の本曲を、対山流本曲と照合・検証して、現代に息づく原点の再現と西園流の再生に、また「東海三曲演奏家の会」の代表として、若手演奏家の育成・支援とその環境づくりに精いっぱい取り組んでいきたいと言われている。(了)

岩田西園師の本曲の配信:「尺八 いま・むかし」(椋山女学園大学飯塚研究室ホームページ「恵理人の小屋」内)  
<http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~izuka/erito1/iwata1.html>  
東海三曲演奏家の会演奏会情報は「しゃくはちすと 岩田昭彦 Official web site “JAZZY 尺八の世界”内」(<http://www1.ocn.ne.jp/~shakkey/page007.html>)

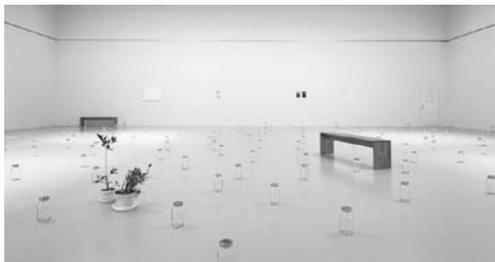
# ピックアップ



## 若手の企画が満載! ファン・デ・ナゴヤ美術展2012

1月12~22日、東区の市民ギャラリー矢田でファン・デ・ナゴヤ美術展2012が開催された。これは、名古屋市市民文化振興事業積立基金(文化基金)を活用して実施される企画コンペティションによる展覧会で、若手の企画者・作家の育成を目的に1998年から続けられている。今回は11企画から伊藤正人さんの「緘黙する景色」、文谷有佳里さんの「ぶんのせんともものもの~二人の線が出会うはなし~」、近藤佳那子さん、古畑大気さん、山下誉子さんの「SPOT/IN/CUBE」、石堀礼子さんの「Plants Architecture」の4つの企画が選ばれた。

「緘黙する景色」では、ガラス瓶160個余りを床に点在させた第1展示室と廊下



「緘黙する景色」

に、絵画や写真、青い文字が書かれた原稿用紙、観葉植物、ベンチを配置。照明をほとんど使わずに天窓からの自然光を利用したほの暗い会場では、絵や文字はぼんやりとしか見えず、どこからか流れてくるラジオの音もはっきりとは聞き取れない。とはいうものの、ベンチに座ってしばらく過ごすうちに、それまでに捉えたさまざまな断片がつながり、居心地のいい風景が立ち上がってくる。

「ぶんのせんともものもの~」では、文谷さんと宇田ももさんがドローイングを滞在制作。第2展示室の壁が作品で埋



「ぶんのせんともものもの」

め尽くされ、毎日展示が変化していくのが見どころだ。ボールペンの流麗な線が美しい文谷さんの作品と、気になった物や思いついたことが日記のように描かれた宇田さんの作品が対照的だった。

展示室中央に建てられた四角い小屋が異彩を放つ「SPOT/IN/CUBE」では、第3・4展示室に並べられた6名の作品と

小屋の中で展開される共同制作の対比がポイント。この共同制作は、最初に



「SPOT/IN/CUBE」

一人が描き、続く人は最初の作家ならどう描くかを考えながら、リレー方式で完成を目指すというもの。参加作家の塚本智也さんは「他者の描き方を意識することをおして、自己の独自性を考えることができた」という。



「Plants Architecture」

第5~7展示室の「Plants Architecture」では、光ファイバーやモーターなど人工的な技術を駆使して、植物と人間の関係が表現されていたのが興味深かった。一定の数式を与えることによってコンピュータでつくられた映像作品は、植物が成長するさまと共に人間の血流をも想起させ、私たち人間も自然の一部であることを認識させた。

今回は学生を含む20代中心の企画が並んだが、今後も市民ギャラリー矢田の空間を使った若手の挑戦に大いに期待したい。(T)

# プロに学ぶ演劇講座 受講生募集

地元で活動する演出者と一緒に、演じることの楽しさを体感しませんか？

2008年にスタートした「プロに学ぶ演劇講座」。5年目の今年は文化小劇場11館で開講します。基礎から実践まで、様々なジャンルの講座があるので、きっと興味のある内容が見つかるはず。演劇初心者のかたも演劇経験のある方も、ぜひご参加ください。

## 天白文化小劇場 TEL 052-806-8060



シアターゲームをしながら  
演劇の基礎を学ぶ

日 時

4月6、12、20、26日  
5月11、18、25日  
6月1、8、15、22、29日

丸知 亜矢 19:00~21:00  
(演出家)

回数 12回 料金 6,000円

## 南文化小劇場 TEL 052-823-6511



怪奇の物語を想像力と語り  
で...

日本の怪談 百物語Vol.2

日 時

4月10、24日  
5月8、15、22、29日  
6月5、12、26日  
7月3、10日

石狩 真佐夫 14:00~16:00  
(舞台創造  
ななの会代表)

回数 11回 料金 7,000円

## 中川文化小劇場 TEL 052-369-1845



ドラマティックリーディング  
石川啄木の愛と哀の世界に遊ぶ

日 時

4月11、18、25日  
5月2、9、16、23、30日  
6月6、20、27日  
7月4日

久保田 明 13:30~15:30  
(劇団名古屋)

回数 12回 料金 6,500円

## 緑文化小劇場 TEL 052-879-6006



みどり演劇塾'12  
一台の本質を理解し、  
感情を交えて表現する

日 時

4月11、18、25日  
5月9、17、23、30日  
6月6、13、27日  
7月5、12日

本島 勲 13:30~15:30  
(演劇創造αの会  
代表)

回数 12回 料金 6,000円

## 守山文化小劇場 TEL 052-796-1821



守山演劇ラボ'12 笑劇考房  
~井上ひさしの「笑い」  
を取りあげて~

日 時

4月12、19、26日  
5月10、17、24、31日  
6月7、14、21、28日  
7月5、12日

右来左往 18:30~21:00  
(劇作家・演出家)

回数 13回 料金 7,000円

## 西文化小劇場 TEL 052-523-0080



別役実作品を使って、  
不条理劇を楽しもう

日 時

4月24日  
5月8、15、22、29日  
6月5、12、19日  
7月10、18日

神谷 尚吾 19:00~21:00  
(演出家・俳優)

回数 10回 料金 6,000円

## 北文化小劇場 TEL 052-910-3366



股旅物を朗読劇で  
~長谷川伸の世界を  
表現する~

日 時

5月8、15、22日  
6月5、19、26日  
7月3、10、24、31日  
8月7、21、28日

木崎 裕次 13:30~16:00  
(名古屋シアター  
アーツ)

回数 13回 料金 7,000円

## 中村文化小劇場 TEL 052-411-4565



声の表現をより豊かに

日 時

5月9、23、30日  
6月6、13、20、27日  
7月4、11、18日  
8月1、7、8日

なかとしお 13:30~16:00  
(演出家・劇作家)

回数 13回 料金 8,000円

## 港文化小劇場 TEL 052-654-8214



「親のせりふ子のせりふ」  
せりふを入れよう!

日 時

8月21、28日  
9月4、11、25日  
10月2、16、23、30日  
11月13、20、27日  
12月4日

岩川 均 15:00~17:00  
(劇座)

回数 13回 料金 8,000円

## 千種文化小劇場 TEL 052-745-6235



演技入門講座

日 時

8月28日  
9月4、11、25日  
10月2、23、30日  
11月6、13、20日

岡田 一彦 9:30~11:30  
(劇座)

回数 10回 料金 6,000円

## 名東文化小劇場 TEL 052-726-0008



「新釈桃太郎」を教材とし  
て朗読劇を創ってみよう!

日 時

9月12、19、26日  
10月3、10、17、24、31日  
11月7、14、21日

星野 龍美 13:30~16:00  
(日本俳優連合会員)

回数 11回 料金 7,000円

☆お問合せ、お申込は各文化小劇場へお願いします。

☆受講料は初回に前納となります。

☆途中で辞められても受講料の払い戻しはできませんのでご了承ください。

☆途中参加の場合でも受講料は全額お支払いいただきます。

☆受講料はテキスト代込みですが、講座によっては別途ご用意いただくものがあります。

## 平成23年度 名古屋市芸術賞

平成23年度名古屋市芸術賞は、次の方が受賞されました。「芸術特賞」は、長年にわたり優れた芸術創造活動を行い、かつ、近年における活動が顕著で、名古屋の芸術文化の振興に大きな功績のあった方に、「芸術奨励賞」は、継続的に活発な芸術創造活動を行い、かつ、将来の活躍が期待され、今後とも名古屋市の芸術文化の振興に寄与することを期待できる方に贈るものです。

### 名古屋市芸術特賞

いよだ せいこう  
**伊豫田 静弘**

演出・劇作



昭和38(1963)年、日本放送協会(NHK)に入局し、NHK名古屋放送局へ赴任。以降、名古屋や東京で大河ドラマ「国盗り物語」(昭和48(1973)年)をはじめ、数多くのテレビドラマを演出。

ドラマ「ながらえば」(昭和57(1982)年)では、モンテカルロ国際テレビ祭最優秀演出賞、文化庁芸術祭優秀作品賞、放送文化基金大賞などを受賞、演出家としての地歩を固める。また、ドラマ「二本の桜」(平成3(1991)年)では、文化庁芸術祭芸術作品賞を受賞した。

一方、早くから名古屋で舞台作品の台本・演出を手懸け、平成元(1989)年のバレエ「カルメン」(佐々智恵子バレエ団)は名古屋市民芸術祭賞を受賞、平成3(1991)年のオペレッタ「天国と地獄」(名古屋市文化振興事業団)は、ミュージカル仕立てのスピード感あふれる現代版にリメイクして、注目を集めた。

平成11(1999)年から7年間にわたり、知立市文化会館館長と芸術総監督を兼任、独創的な自主企画事業を展開するなど多彩な成果が認められ、平成13(2001)年度から文化庁の芸術拠点館に指定された。

近年の舞台作品に「文楽人形創作オペレッタ」、創作日舞「<sup>げんか</sup>幻花」、音楽劇「<sup>まんどう</sup>万燈の輝く夜に」、ミュージカル「いとしのクレメンタイン」、創作バレエ「美女ヶ原」、音楽劇「おんな忠臣蔵」などがあり、現在もなお第一線で活躍している。

### 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム部門  
AV機器販売部門(家庭用)  
映像企画・制作部門  
放送関連部門  
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
生きた情報を発信

**TVS** 株式会社 **東海ビデオシステム**  
名古屋市中区上前津二丁目14-15 TEL<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守



株式会社 **エーアンドブイ**  
〒464-0846  
名古屋市中区千種区城木町二丁目98  
TEL 052 (761) 5400  
FAX 052 (761) 0909

名古屋市芸術奨励賞

むね つぐ とく し  
**宗次 徳二**

音楽普及



昭和53(1978)年、カレーハウスCoCo壱番屋を創業、昭和57(1982)年、株式会社壱番屋を設立し、代表取締役社長、平成10(1998)年、同社代表取締役会長に就任、株式上場を果たした後、平成14(2002)年、同社創業者特別顧問に就任、会社の経営を後継者に引き継いだ。

平成15(2003)年1月にNPO法人イエロー・エンジェルを設立、理事長に就任し、夢や希望を持って一つの事に打ち込んでいの方々を支援するとともに、スポーツ、文化・芸術分野などで高い目標を持つ有能・有望な個人・団体に対する助成や各種コンサートの開催及び支援活動を行っている。平成19(2007)年3月には、作曲家の三枝成彰が監修を務めたクラシック音楽専用のコンサートホール「宗次ホール(客席数:310席)」を名古屋市中区に私財を投じて建設、開館し、「暮らしの中にクラシック」をコンセプトに、オープン当初から開催しているランチとクラシックコンサートをセットにしたランチタイムコンサートやスイーツタイムコンサートなど現在、年間350回のコンサートを企画・運営しており、音楽を通じて地域の活性化に尽力している。平成19(2007)年11月には、社会に役立つ寄付を行った人を顕彰する「第10回まちかどのフィナンソピスト賞」を受賞した。

近年、各地での講演活動に東奔西走しながら、クラシック音楽の普及活動を続けている。

名古屋市芸術奨励賞

みしろ まさし  
**三代真史ジャズ  
舞踊団**

舞踊(ジャズダンス)



平成2(1990)年の舞踊団結成以来、三代真史主宰、坂本久美子芸術監督を中心として、定期公演を年2回実施し、今年で各々21回を数えるほか地元名古屋のバレエ・モダンダンス・日本舞踊・声楽・ミュージカル・民謡・劇団などの芸術団体と多数の共演・出演を行っている。

日本の美学、武士道の精神を独創的な身体表現で構築した「三代スタイル」が、和魂洋才、東と西の融合、舞踊芸術団体として国内外で高く評価され、平成2(1990)年より、アメリカ・ヨーロッパを中心にツアー・公演・招聘出演等グローバルな活動を展開している。

国内においては、平成14(2002)年文化庁芸術祭における「信玄と半蔵」、平成17(2005)年愛知万博における「おどるマンダラ」、平成20(2009)年国民文化祭静岡・モダンダンスの祭典における「信長」、平成21(2010)年COP10における「踊る信長」を上演した。

平成4(1992)年全日本ジャズダンスコンクールグランプリ、平成5(1993)年名古屋市民芸術祭賞、平成11(1999)年国際振付コンクール金賞といった受賞歴を持つ。

芸術性が高く、高度なテクニックに裏付けされた完成度の高い作品は、観客に大きな感動を与えており、今後も国内外でのさらなる活躍が期待される。

名古屋市芸術奨励賞

か とり き よ  
**鹿取 希世**

伝統芸能(能楽・笛方)



昭和39(1964)年能楽藤田流に入門し、十世宗家藤田六郎兵衛に師事する。昭和40(1965)年に初舞台を務め、昭和43(1968)年には藤田流職分となり、昭和44(1969)年に「重習曲」、「猩々乱」を抜曲し能楽協会に入会、名古屋支部としては初の女性囃子方誕生となった。

昭和56(1981)年より現宗家十一世藤田六郎兵衛に師事し、昭和57(1982)年に「石橋」、「道成寺」、昭和59(1984)年に「望月」、昭和62(1987)年に「翁」と大曲を順次抜く。

昭和62(1987)年、これまでの舞台活動が認められ名古屋市文化振興事業団芸術創造賞を受賞。

平成4(1992)年、藤田流では一子相伝曲(家元のみ伝承曲)であった「清経」、「恋之音取」を特に許され抜く。平成10(1998)年には能楽界において特に大事にされている曲種である老女物の「卒都婆小町」を抜き、平成11(2002)年には大曲「鷲乱」を抜いた。平成16(2007)年、文部科学大臣より能楽界において女性初となる重要無形文化財総合指定保持者の認定を受け、同年、日本能楽会に入会する。

現在は、名古屋能楽堂を中心に国立能楽堂(東京)等で舞台を務めるとともに、各地において藤田流能管教室を開校するなど、能管の普及に努めており、今後も更なる活躍が期待される。

ナディアパークプレイガイド  
閉鎖と移転のお知らせ

ナディアパークプレイガイド(中区栄三丁目18-1ナディアパーク7階)は、誠に勝手ながら閉鎖し、8階事業推進課内へ移転させていただきます。これにともない「チケットぴあ」のチケット等の取扱いを終了いたします。たいへんご迷惑をおかけし恐縮ですが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【平成24年3月～移転先の名称等】  
名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイド  
TEL/052-249-9387  
場所/ナディアパーク8階  
営業時間/平日9:00~17:00  
詳しくは文化振興部 事業推進課 TEL 052-249-9385

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい! 使う! 創る! 観る!

名古屋市文化振興事業団  
『友の会』会員大募集

エンジョイコース(年会費3,000円)

- ・事業団主催公演や提携事業のチケット割引!
- ・情報満載の「友の会だより」などを毎月お届け!
- ・提携ショップでのお買い物の優待割引!
- ・会員の皆さまが参加できるイベント開催!など

クリエイティブコース(年会費15,000円)

- 上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。
- ・会員主催の公演チラシを事業団施設に無料配布!など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで TEL 052-249-9385

「なごや文化情報」編集委員

- 飯塚恵理人 (椋山女学園大学文化情報学部教授)
- 小沢優子 (名古屋音楽大学講師)
- 倉知外子 (オクダ モダンダンス クラスタ副代表)
- 酒井晶代 (愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)
- 田中由紀子 (美術批評/ライター)
- はせひろいち (劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

## オーケストラの日コンサート ～オーケストラで聴く“テレサ・テン”～

3月31日はオーケストラの日です。アジアの歌姫“テレサ・テン”のヒットナンバーをオーケストラの演奏で聴く、贅沢なコンサートです。ぜひご来場ください!

日 時	3月31日(土)15:00
会 場	港文化小劇場
出 演	中村貴志(指揮)、国藤真理子(歌)、セントラル愛知交響楽団(演奏)
曲 目	〔1部〕クラシック入門編

誰もが知ってる名曲の数々から楽器紹介まで  
オーケストラの魅力に迫ります!  
オッフェンバック/喜歌劇「天国と地獄」より序曲、  
ハーライン/虹の彼方に 他

### 〔2部〕テレサ・テン～愛の特集編

懐かしい流行歌がスケール感あふれる  
オーケストラの演奏で新たな魅力をもって甦ります!  
蘇州夜曲 / つぐない / 時の流れに身をまかせ  
別れの予感 / 愛人 / 空港 他

料 金	1,000円(全自由席)(事業団友の会会員900円) ※未就学児の入場はご遠慮ください
-----	--

主 催	公益財団法人名古屋市文化振興事業団、 一般社団法人セントラル愛知交響楽団、社団法人日本オーケストラ連盟
-----	--

助 成	公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション
-----	---------------------------

問い合わせ	公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386
-------	---



中村貴志(指揮)



国藤真理子(歌)



セントラル愛知交響楽団(演奏)

## 名古屋市文化基金のご案内 名古屋の文化を創るのは、あなたです。

名古屋市文化基金(名古屋市市民文化振興事業積立基金)は、市民生活に潤いをもたらす名古屋の文化の発展のために、昭和57年に設置されました。この基金は、皆様からのご寄附と市の出資金を積み立て、その運用による果実(利息)で、市民の文化振興のための事業を実施することに役立てられています。

皆様からのご寄附をお待ちするとともに、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 参加体験事業

市民の皆様が参加・体験できる事業を積極的に展開しています。

### 鑑賞事業

伝統芸能をはじめ、優れた舞台芸術を紹介しています。

### 支援育成事業

市民の皆様が行う創造的な文化活動を支援しています。

### 情報発信事業

「なごや文化情報」などを発行し、文化情報を広く提供しています。



### 名古屋市文化基金は、ふるさと寄附金(納税)制度の適用対象となります。

※名古屋市民の皆様が、名古屋市文化基金に寄附される場合も、この制度によって税額控除を受けることができます。税控除等の詳細につきましては、リーフレット又は市公式ウェブサイトをご覧ください。

### 問い合わせ

名古屋市市民経済局文化振興室 TEL 052-972-3172  
公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト トップページ

文化 基金

検索



感動を育てる種をまこう。  
名古屋市文化基金